

方剂名	効能	生薬組成
書籍	主治および証	病機 方意
祛暑剂 祛暑解表剂 1		
<p>こうじゅさん 香薷散 (飲)</p> <p>和剂局方</p>	<p>解表祛暑・化湿和中</p> <p><主治> 陰暑 (外寒内湿) 悪寒、発熱、頭が重く痛む、無汗、胸苦しい、四肢が重だるい、腹痛、悪心、嘔吐、下痢、舌苔が白膩、脈が浮などを呈す。</p> <p><病機> 暑に納涼して冷たいものを飲食したために、外は風寒を感受し、内は湿邪の侵襲を受けた状態である。風寒が肌表にあるので悪寒、発熱、無汗、頭痛、脈が浮を呈し、湿邪が停滞するために頭が重い、身体が重だるいなどを伴い、湿邪が脾胃の気機を阻滞して胸苦しい、悪心、嘔吐、腹痛、下痢がみられる。舌苔が白膩は寒湿を表わす。暑病ではあるが、寒湿の陰邪による病変であるから「陰暑」を称する。</p> <p><方意> 肌表の寒邪を外散し、脾胃の湿滞を内化する必要があるが、夏の炎暑の時候であるから辛散が過度にならないように配慮する必要がある。 辛温芳香の香薷は「夏令の麻黄」と呼ばれ、解表散寒すると共に祛暑化湿に働き、主薬である。苦辛温の厚朴は行気寛中により湿滞を化し、甘平の白扁豆は健脾和中、利湿消暑に働く。酒は血脈を温行して散寒を補助する。全体で散寒化湿、解暑和中の効果が得られ、辛散は緩和である。</p> <p><参考> 本方 (香薷飲) は、「冷服」の指示があり、温薬を冷服することによって、格拒の嘔吐を防止している。寒湿を呈さない暑病には、本方は適さない。</p>	<p>香薷 15g・白扁豆 12g・厚朴 12g 水煎服あるいは酒を少量加えて煎服。粗末にし1回9gを少量の酒と水煎し、冷やして服用してもよい。</p>
<p>しみこうじゅいん 四味香薷飲</p>		<p>香薷散 + 黄連</p> <p>香薷散の加減方で、口渴、発熱が強い場合に用いる。</p>
<p>こうじゅいん 黄連香薷飲</p>		<p>香薷散 - 白扁豆 + 黄連</p> <p>香薷散の加減方で、裏熱が強い場合に用いる。</p>
<p>ごもつこうじゅいん 五物香薷飲</p>		<p>香薷散 + (茯苓・炙甘草)</p> <p>香薷散の加減方で、腹満、下痢が強い場合に用いる。</p>
<p>じゅうみこうじゅいん 十味香薷飲</p>		<p>五物香薷飲 + (人参・黄耆・白朮・陳皮・木瓜)</p> <p>香薷散の加減方で、中気虚弱で汗が多い場合に用いる。</p>